

地球温暖化の真相

未来社会を考える会

毎年何兆円もの予算（10年で150兆円）が投じられて、
森林などがソーラーパネルによって埋め尽くされ
たり、巨大な風車が林立したり、
再エネ賦課金によって電気料金が上乗せされたり、
実用的ではない高価なEV車を補助金で普及させたり
....

このような政策の根底にあるのは、IPCCの人間が排出
する炭酸ガスによる地球温暖化説である。

「地球温暖化」に起因する問題

化石燃料（石炭・石油等）の大量使用

- 地球が温暖化
 - ・このまま気温が上昇し続けると世界が大変なことに
 - ・氷河が、台風が、南の島が、北極の熊が、森林火災が、災害が激甚化……
- 化石燃料の使用を止めて再生可能エネルギー（太陽光発電、風力発電）に転換を！
- ガソリンやディーゼル車を止めて電気自動車（EV）にシフトすべきだ！
- 牛のゲップはメタンガスを出すので牛の飼育をやめるべきだ！

再生可能エネルギーの普及

- 再エネ賦課金による電力料金のアップ
- 広大な土地の使用による自然破壊
- ワイグル人の強制労働による中国製ソーラーパネルの普及
- ソーラーパネルの廃棄に伴う公害問題
- 自宅建物にソーラーパネルの設置義務化→住宅価格の上昇

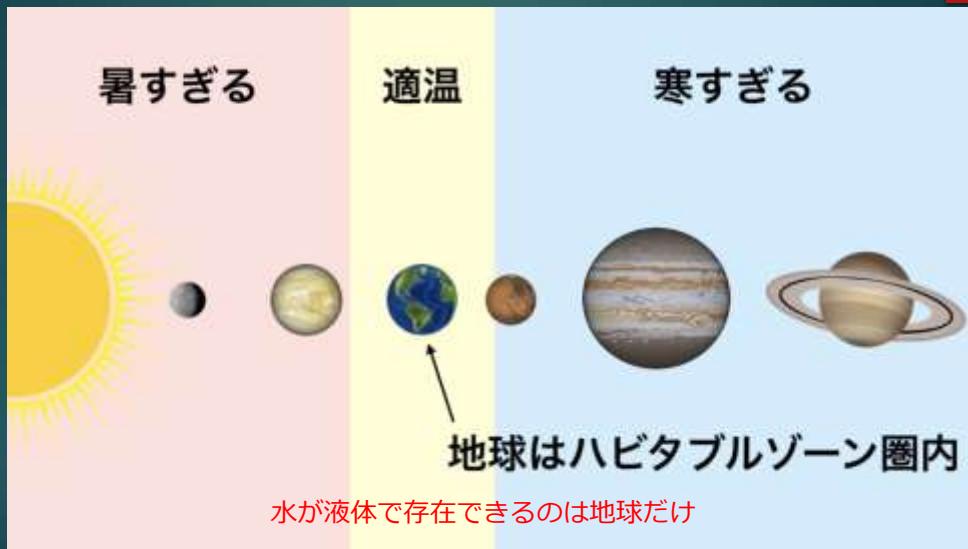
電力の不安定化

- 火力発電によるバックアップ体制が必要
- 原発の再稼働が必要

地球の炭酸ガスについて考えてみよう

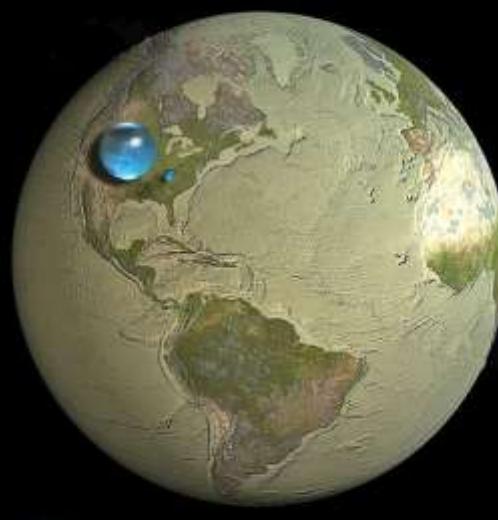


地球だけ炭酸ガスの割合が激減した理由



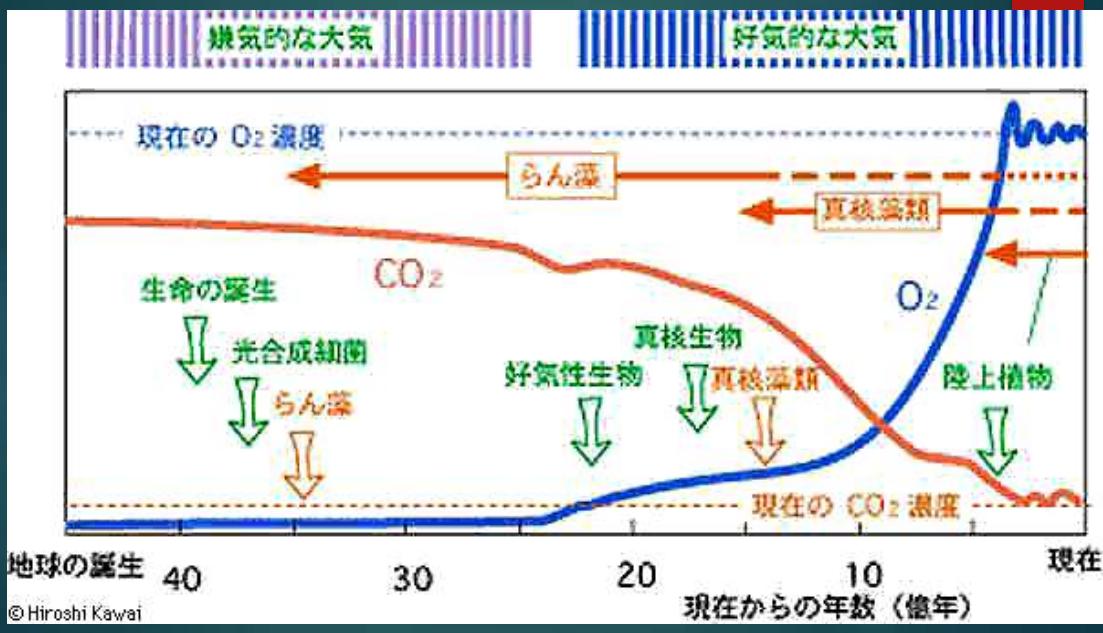
水の惑星と言うけれど…

The World's Water

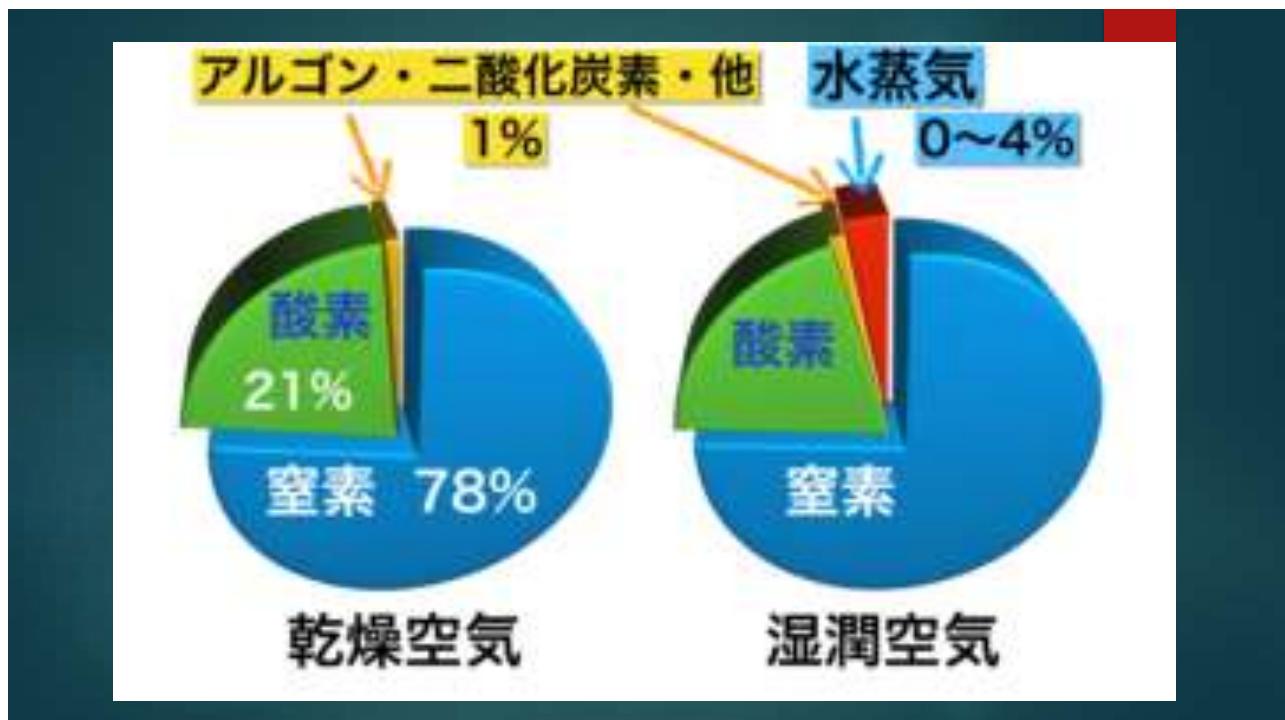
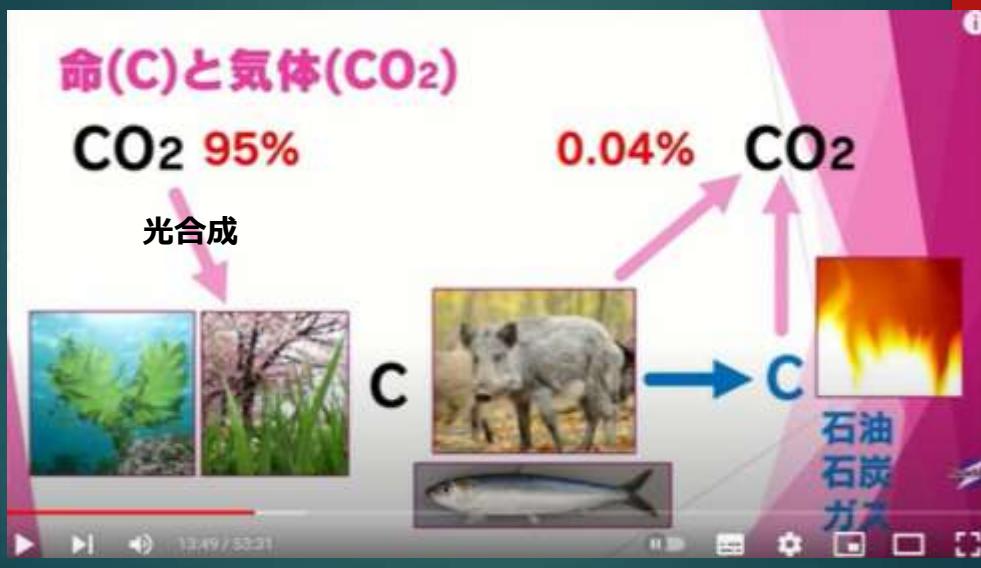


All water on, in, and above the Earth
• Liquid fresh water
• Fresh-water lakes and rivers

Hewitt Pester, USGS
Jack Cook, Woods Hole Oceanographic Institute,
Adam Voigt
Data source: Igne Shiklomanov
<http://ga.water.usgs.gov/watres/watres.htm>

CaCO₃の塊

炭酸ガスは悪者か？



分子式と温室効果の関係

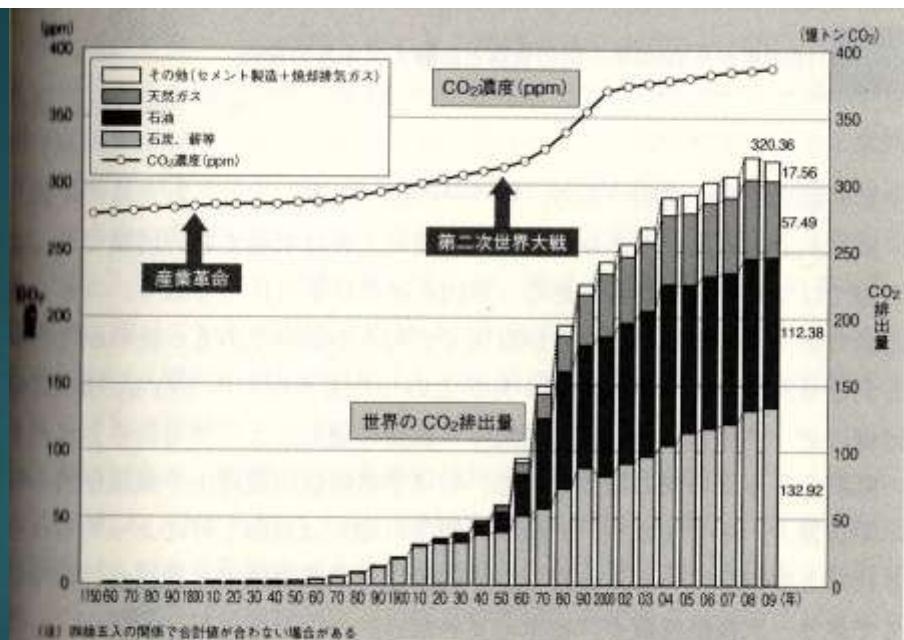
| | | |
|-------|--------------------|--------------|
| 窒素 | : N ₂ | 温室効果無 (0?) |
| 酸素 | : O ₂ | 温室効果無 (0?) |
| 水 | : H ₂ O | 温室効果有 (1?) |
| 炭酸ガス | : CO ₂ | 温室効果有 (1) |
| メタンガス | : CH ₄ | 強烈な温室効果 (28) |

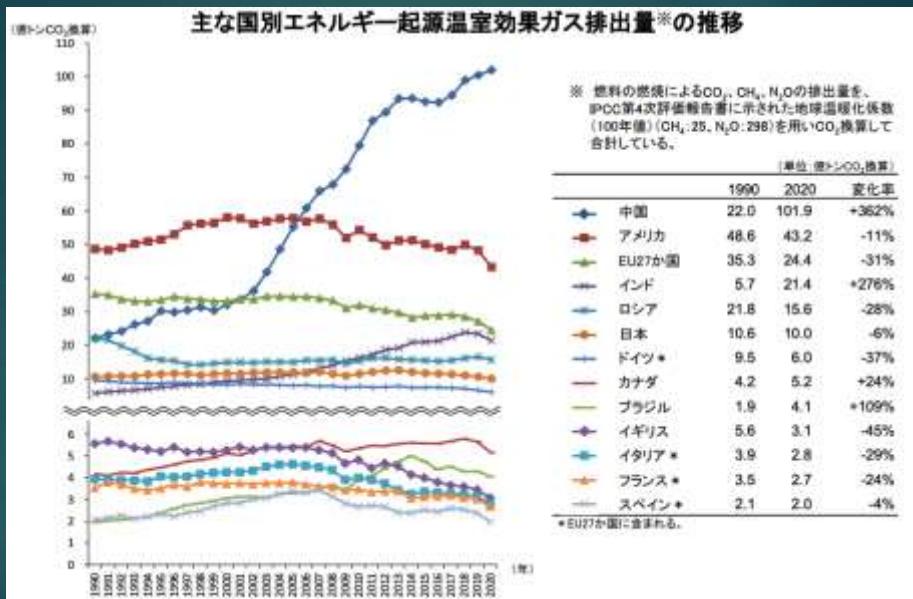


図 1.8 温室効果の内訳

石炭、石油、天然ガスとメタンハイドレートの埋蔵量

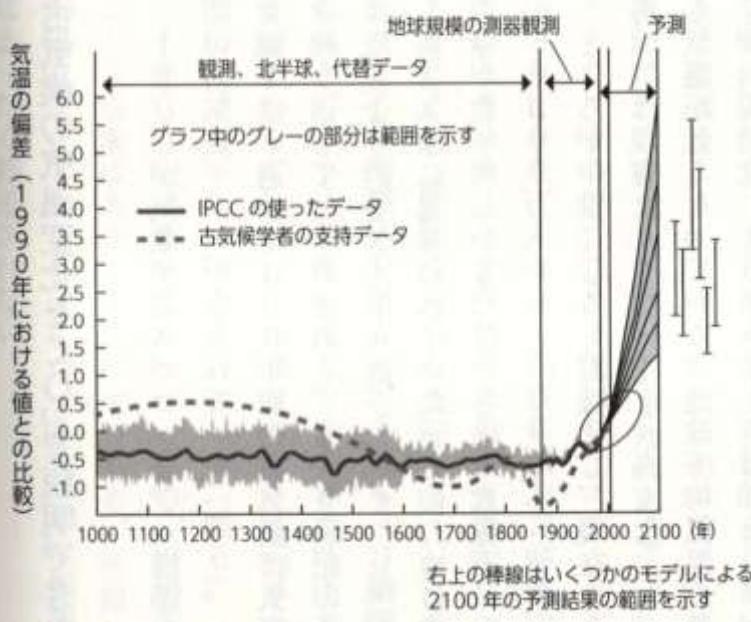
- 石炭、石油、天然ガスの埋蔵量はそれぞれ異なり、一般的に石炭、天然ガス、石油の順に多く、可採年数も石炭が最も長く、石油が最も短いと推定されています。2023年末時点の世界の埋蔵量は、石炭が約1兆1,070億トン、石油が約1兆7,340億バレルと推定されており、天然ガスは2020年末時点で約188兆立方メートルでした。
- 世界のメタンハイドレート埋蔵量は、推定で数千兆立方メートルに及び、世界の確認済み天然ガス埋蔵量をはるかに凌駕するといわれています。陸域と海域を合わせると、在来型天然ガス資源に匹敵する、あるいはそれを上回る膨大な量が存在すると推計されています。





出典：環境省『世界のエネルギー起源CO₂排出量（2020年）』p.5

図5 IPCCによる過去1000年の古気候と21世紀の予測



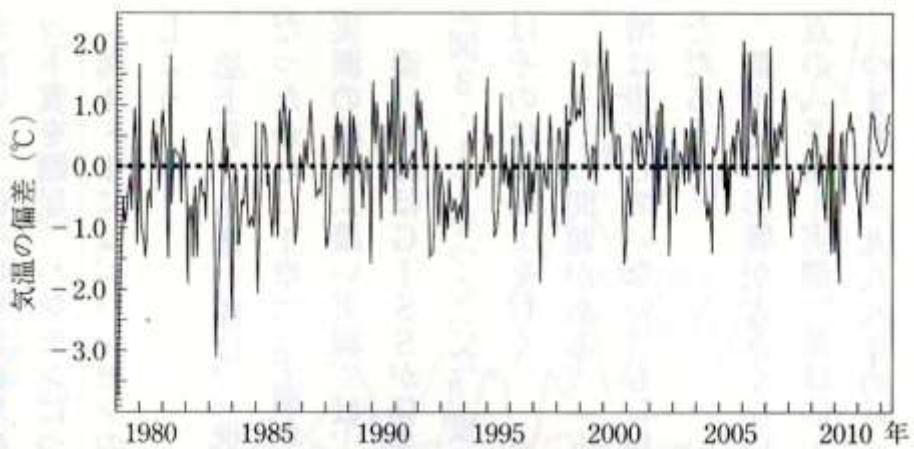
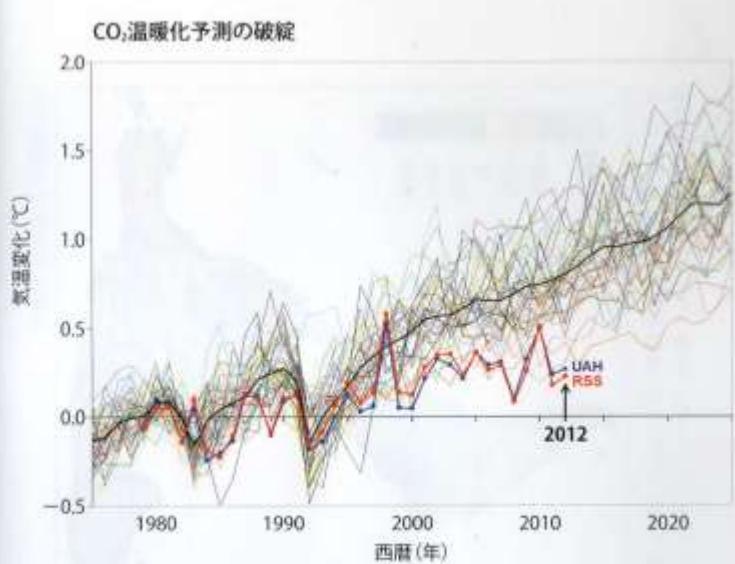


図 4.2 衛星で測った米国 48 州の気温トレンド：1979 年～2011 年 12 月

縦軸の「偏差」は 1981～2010 年の平均値を 0 とみた変動を表す。水平な破線は著者が追加。

[アラバマ大学／NASA が公開している対流圏底層＝地表付近のデータ]



カラーロ線 2 1978 年以降の地球平均気温の経年変化。44 個の気候モデル計算（細線）と衛星観測データ（UAH, RSS）の比較。年を追うごとに乖離が大きくなっている（スペンサー 2013）

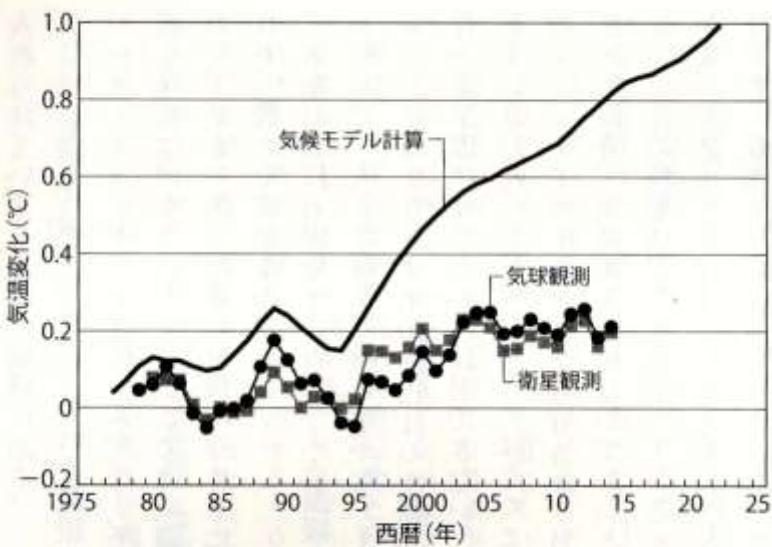


図1-2 1979～2014年の地球平均気温の変化。102個の気候モデル計算（CO₂排出モデル CMIP-5による）と、4個の気球観測、2個の衛星観測の平均値の比較。気球と衛星の観測結果はよく合っており、計算結果はそれから大きく乖離している（クリスティ 2015）

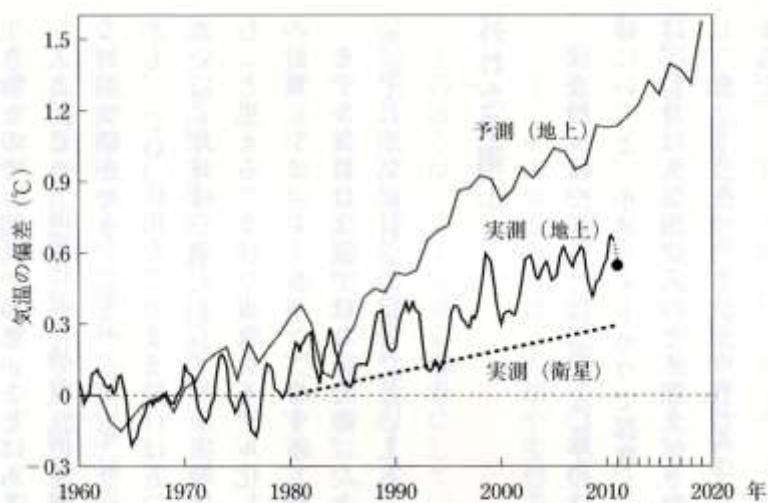


図 4.1 1988 年時点の予測と GISS の実測気温の推移
どちらも 1951～80 年の平均値を 0 とみた偏差を表す。
薄い実線 : J. Hansen *et al.*, *J. Geophys. Res.*, 93, 9341 (1988).
濃い実線 : <http://data.giss.nasa.gov/gistemp/graphs/> (2011 年の●は予想値)
太い破線 : 図 3.8 の衛星観測データに目分量で引いた破線と同じ。

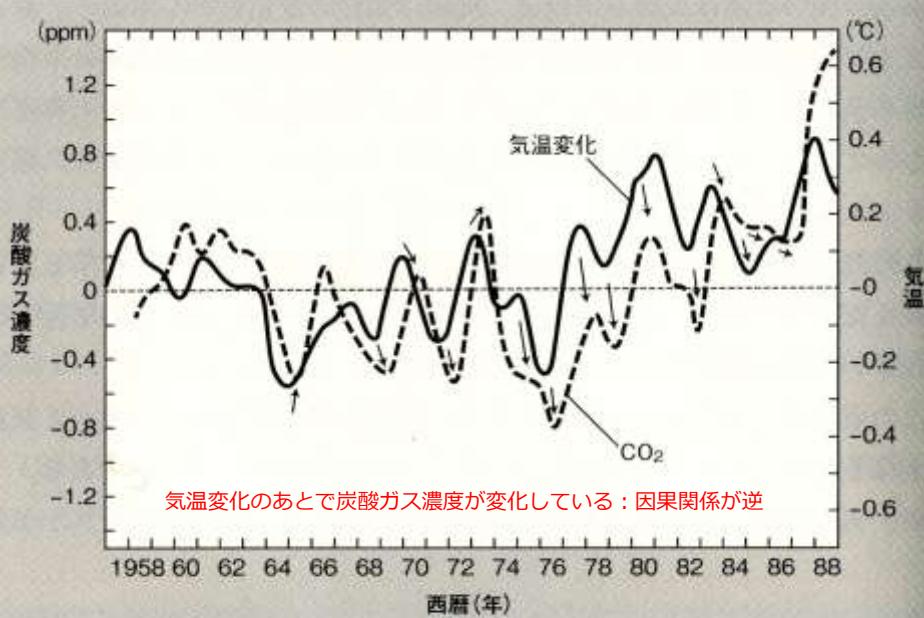


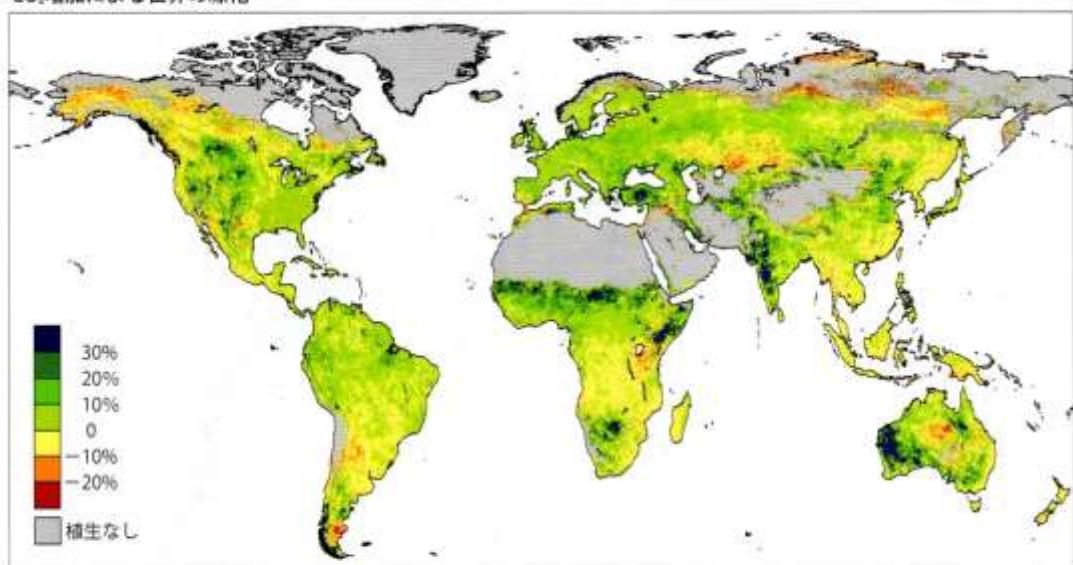
図13 1958年から1988年の間の気温と炭酸ガス濃度の変化

表2.2 CO₂濃度を上げると増える作物の収量

| 作物 | CO ₂ 増加がもたらす収量の平均増加率* | | | |
|---------|----------------------------------|-----|----------|-----|
| | +300 ppm | 報告数 | +600 ppm | 報告数 |
| 小麦 | 1.32 倍 | 235 | 1.50 倍 | 14 |
| 米 | 1.36 ± 0.02 倍 | 188 | 2.41 倍 | 22 |
| 大豆 | 1.47 倍 | 129 | 1.70 倍 | 26 |
| トマト | 1.33 倍 | 45 | 1.41 倍 | 39 |
| ジャガイモ | 1.30 倍 | 33 | 1.60 倍 | 17 |
| トウモロコシ | 1.21 倍 | 20 | 1.33 倍 | 10 |
| ナタネ | 1.53 倍 | 20 | 1.37 倍 | 3 |
| 大麦 | 1.39 倍 | 19 | 1.51 倍 | 4 |
| インゲン豆 | 1.64 倍 | 17 | 1.72 倍 | 6 |
| キュウリ | 1.50 倍 | 9 | 1.46 倍 | 11 |
| ブロッコリー | 1.29 倍 | 5 | 1.60 倍 | 9 |
| アルファルファ | 1.33 倍 | 73 | | |
| クローバー | 1.65 倍 | 49 | | |
| ボンデローサ松 | 1.63 倍 | 47 | | |
| ビーナツ | 1.60 倍 | 38 | | |
| 蕓 | 1.61 倍 | 37 | | |
| 砂糖ダイコン | 1.66 倍 | 32 | | |
| シラカバ | 1.3 倍 | 31 | | |
| ヨシ | 1.15 倍 | 24 | | |
| アカザ | 1.39 倍 | 16 | | |
| 菊の一類 | | | 1.33 倍 | 14 |

* 預定値にはバラつきがあり、たとえば「+300 ppm の米」は「1.36 ± 0.02 倍」、「+600 ppm の小麦」は「1.50 ± 0.11 倍」となるが、表には平均値だけ載せた。

[http://www.co2science.org/data/plant_growth/dry/dry_subject.php から抜粋]

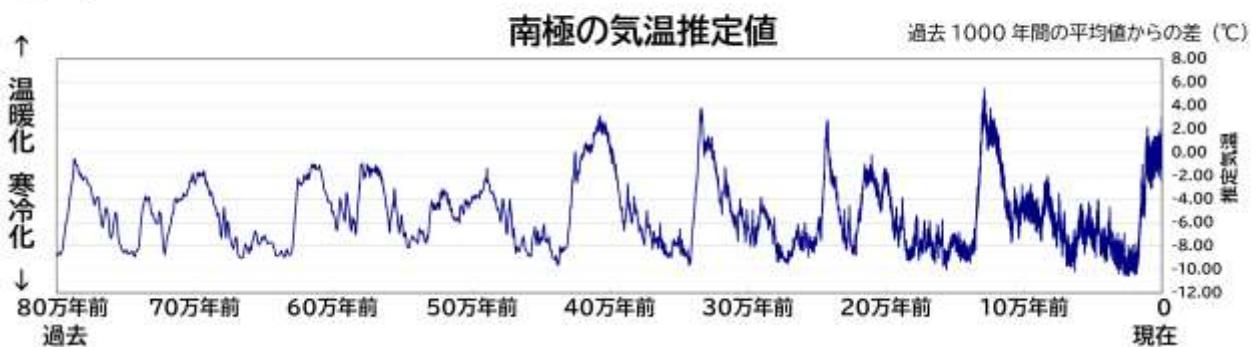
CO₂増加による世界の緑化

カラー図1 地上の植生被覆率の変化 1982～2010。衛星観測による。

被覆率はほぼ全域にわたって増加しており、その増加（11%）は主に大気中CO₂濃度の増加（14%）によるものと結論されている（ドノヒューら 2013）



過去 80 万年間における南極の気温の推定値の時系列



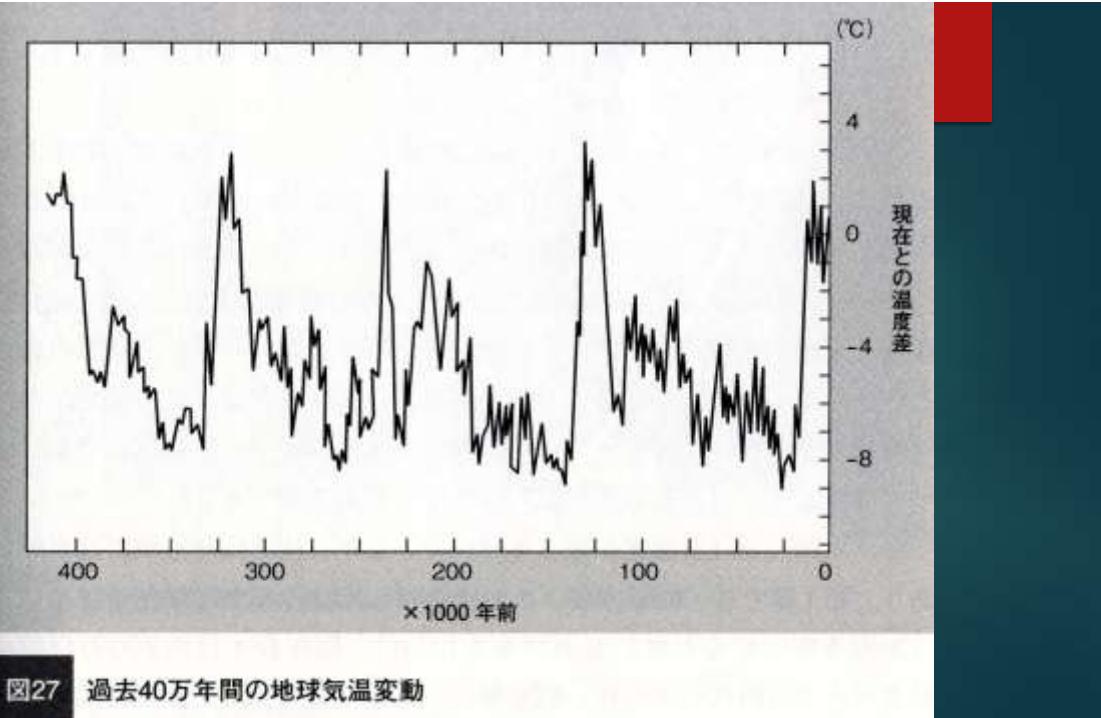


図27 過去40万年間の地球気温変動

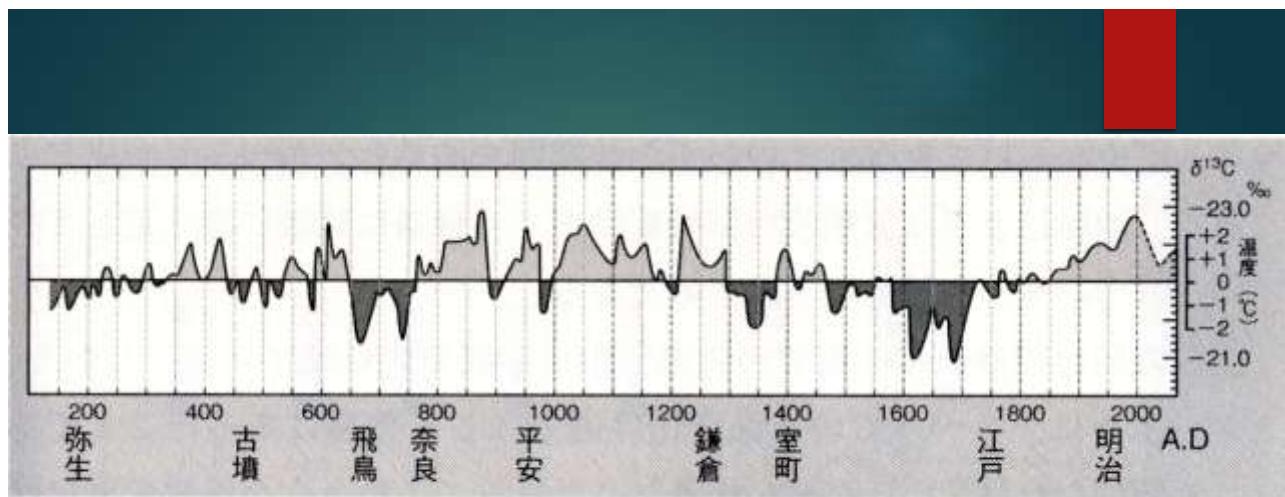


図29C 屋久杉年輪の炭素13同位体比から推定した過去1850年間の気温変化

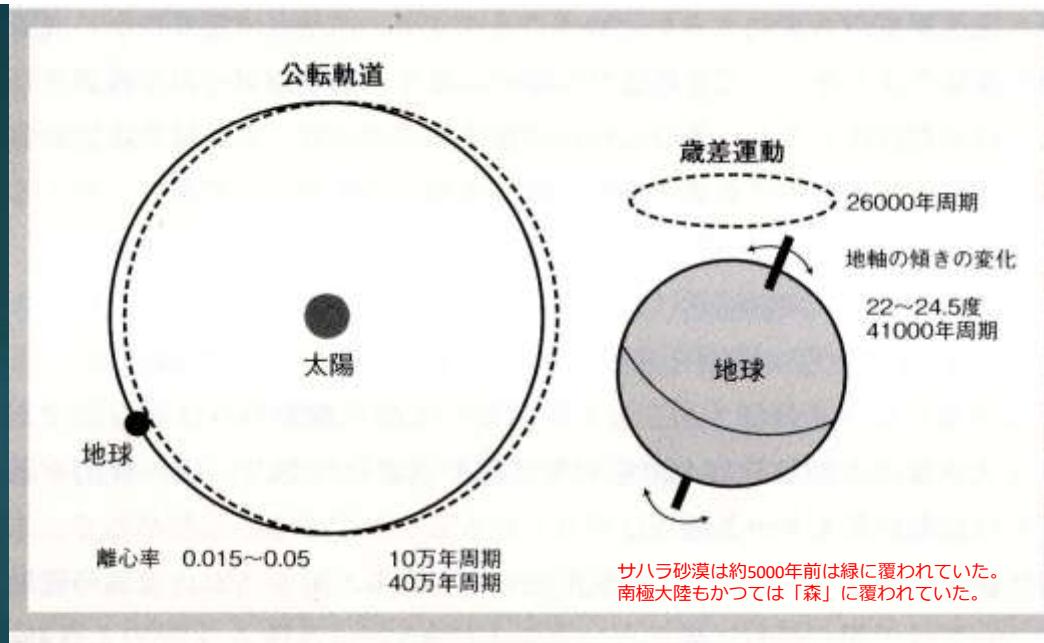


図17 ミランコビッチ・サイクルの概念図

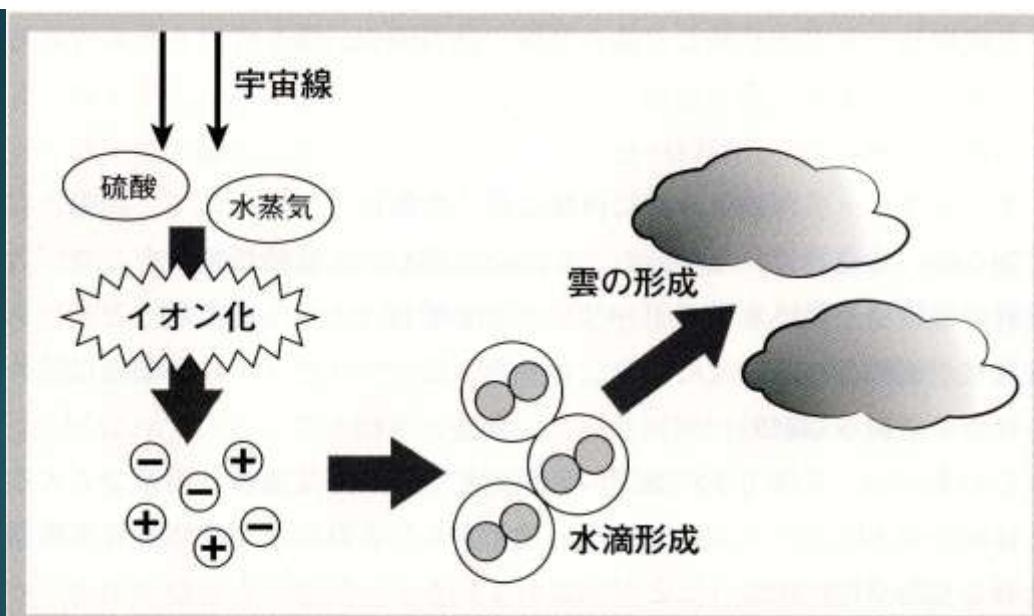


図19 宇宙線放射と雲形成の因果関係を模式的に示した図

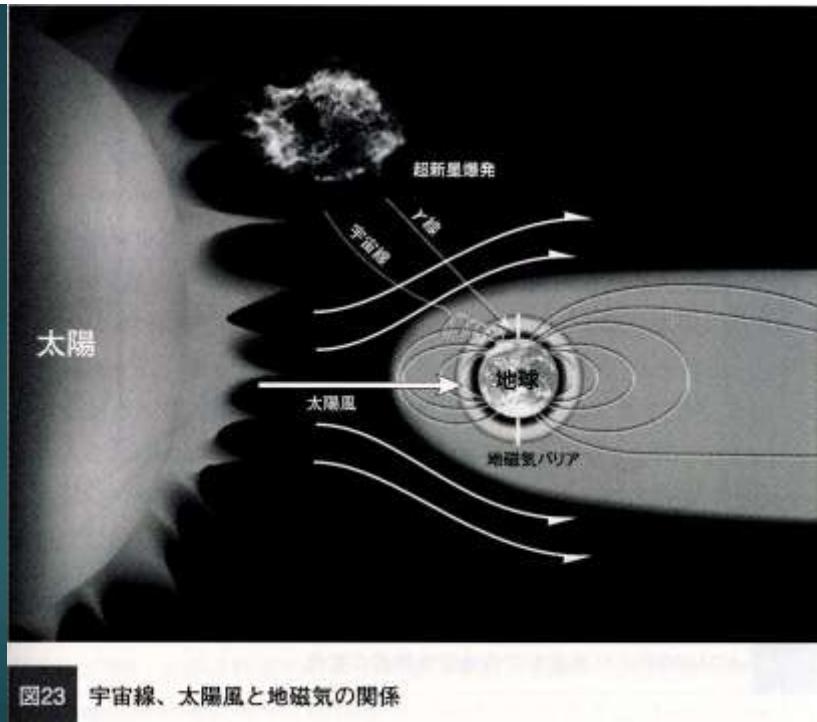


図23 宇宙線、太陽風と地磁気の関係

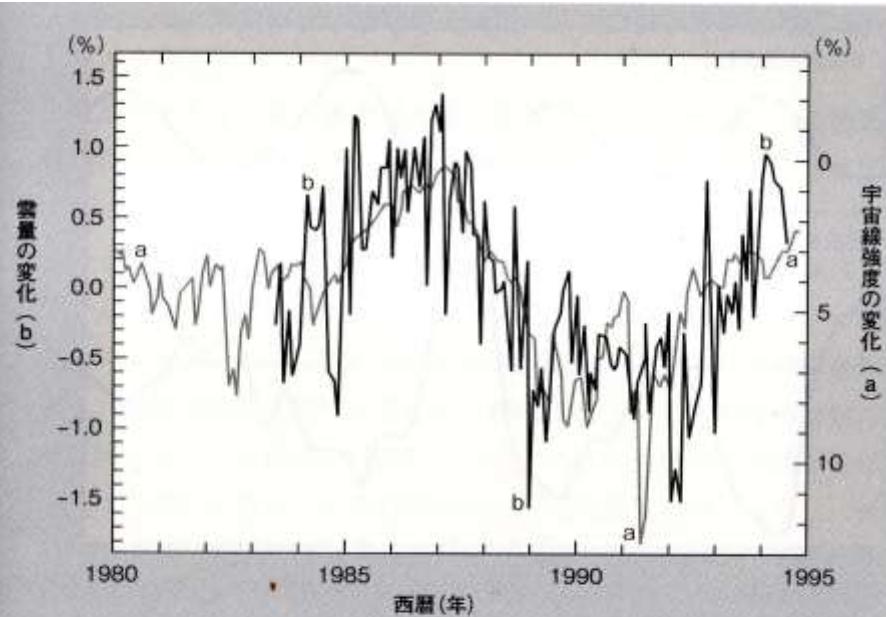


図20 宇宙線強度(図中a)と雲量(b)の関係、ただし同様の関係は中層及び高層雲では認められていない

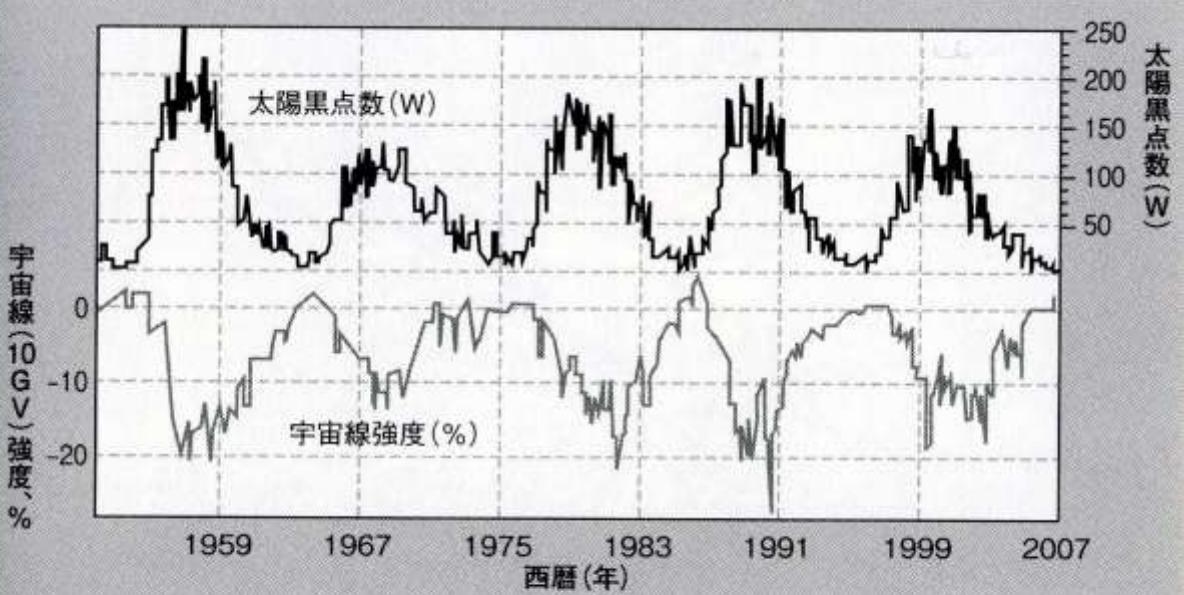


図21 過去50年間の宇宙線強度と太陽活動の変化

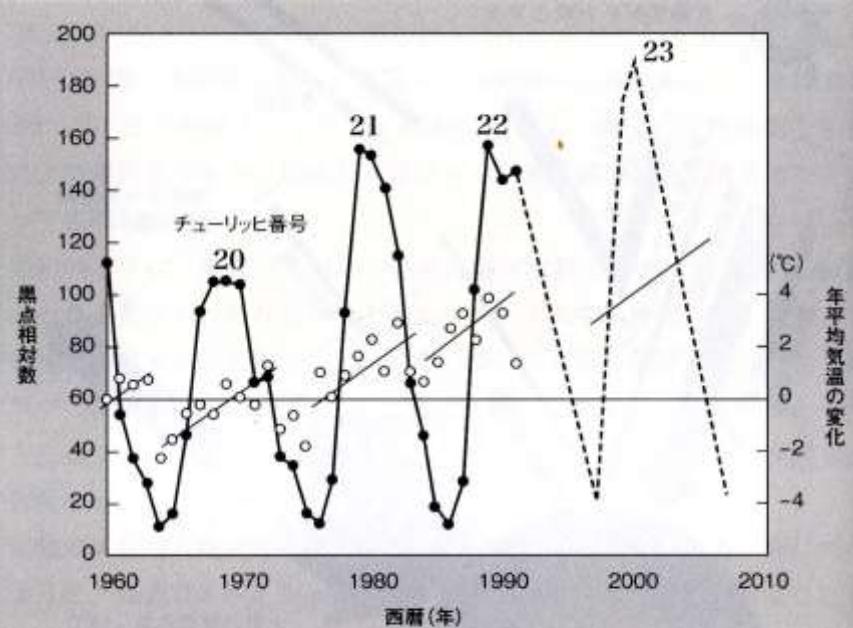


図15 1960年から2010年の間の太陽黒点数と気温変化

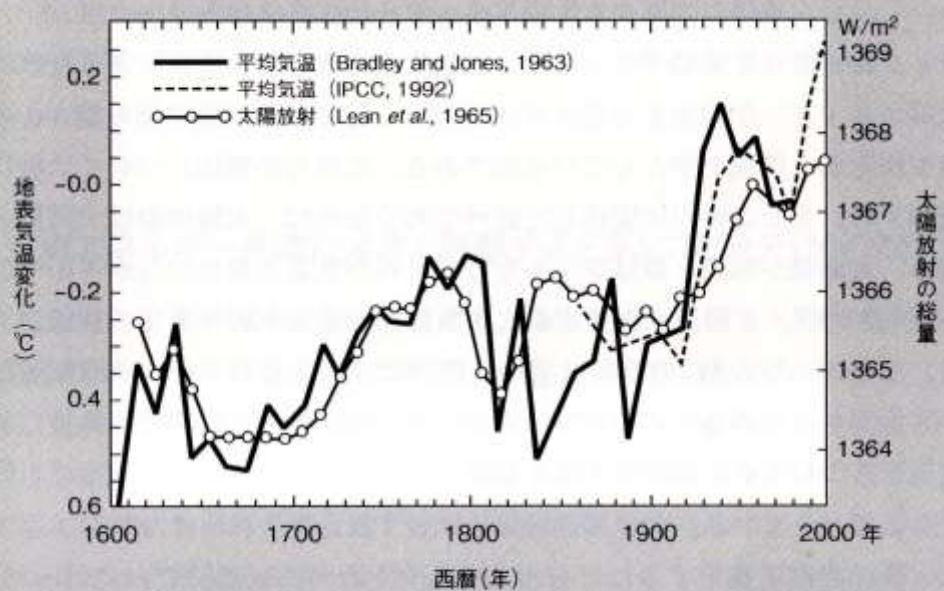


図16 過去400年間の気温変化と太陽黒点数変化

ヒートアイランド現象

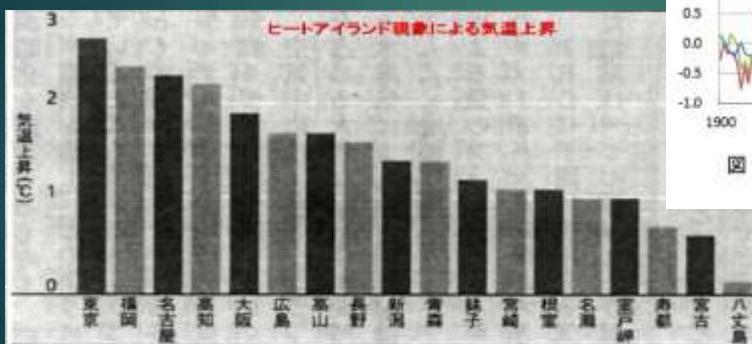
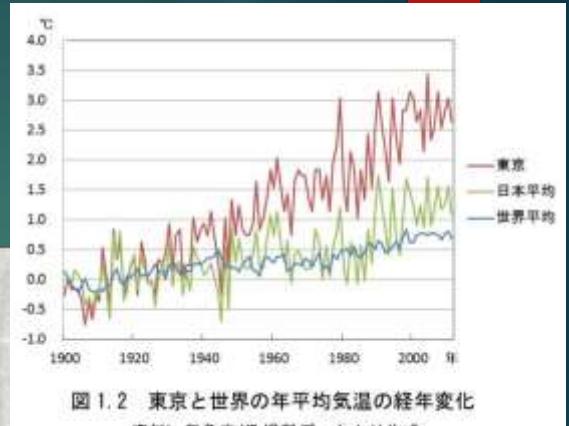


図1-21 日本の18地点における過去80年間の気温上昇。1926—1930年と2006—2010年の5年平均の差を示してある。地名注：銚子（千葉）、名瀬（奄美）、寿都（北海道）、宮古（岩手）（気象庁のデータによる）

図1.2 東京と世界の年平均気温の経年変化
資料) 気象庁 HP 掲載データより作成

CO₂による地球温暖化論に関する疑問 (YouTube動画)

地球温暖化の嘘と真実お話し：梶山正三

【博士も知らないニッポンのウラ】丸山茂徳「地球温暖化のウラ」～CO₂が原因ではない？～

「地球温暖化説」を冷静に見るための11の視点～東大名誉教授が語る～【未来編集】

地球温暖化対策の被害

- いま日本では年々5兆円超（1日に150億円！）の「温暖化対策費」が飛び交っている。
- 莫大な地球温暖化対策予算の無駄
- メガソーラー・巨大風車などの建設に伴う自然・環境破壊
- 中国産ソーラーパネルの大量購入
- 再生エネルギーの買取に伴う電気代賦課金による電気代アップ
- 欧州では、脱炭素化政策により、電力価格の高騰、自動車産業の破壊・経済破綻が進行している。
- 気候変動ブーメラン。環境規制を逆手にとって、欧州を潰すトランプ

地球温暖化に関する2つのノーベル賞の真偽

2007年のノーベル平和省

受賞者：前米副大統領のアル・ゴア氏と「気候変動に関する政府間パネル（IPCC）」
受賞理由：「人為的に起こる地球温暖化の認知を高めたこと」

問題点の指摘

アル・ゴア「不都合な真実」にある科学的間違い

2021年のノーベル物理学賞

受賞者：真鍋淑郎

受賞理由：「地球の気候を物理的にモデル化し、気候変動を定量化して地球温暖化の確実な予測を可能にした」貢献が受賞理由「気候変動の物理的モデル化、気候変動の定量化、地球温暖化の確実な予測」

問題点の指摘

だれにでもわかる気候モデルの問題点 Climate Models

気候モデルの問題点と誤用リスク：脱炭素政策が社会にもたらした影響

参考動画

| | |
|-----------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| CIGS 杉山大志研究主幹講演「地球温暖化のファクトフルネス」① <u>災害の激甚化はフェイク</u> | https://www.youtube.com/watch?v=lVjWqsOQh6I |
| CIGS 杉山大志研究主幹講演「地球温暖化のファクトフルネス」② <u>温暖化対策の費用対効果</u> | https://www.youtube.com/watch?v=2CVWRY7WxII |
| CIGS 杉山大志研究主幹講演「地球温暖化のファクトフルネス」③ <u>世界の社会統計</u> | https://www.youtube.com/watch?v=cVf61F10V0Q&t=2s |
| CIGS 杉山大志研究主幹講演「地球温暖化のファクトフルネス」④ <u>温暖化予測</u> | https://www.youtube.com/watch?v=Kmd5F2754lo&t=3s |
| CIGS 杉山大志研究主幹講演「地球温暖化のファクトフルネス」⑤ <u>グリーン成長</u> | https://www.youtube.com/watch?v=cOK81pgGqDU |
| CIGS 杉山大志研究主幹講演「地球温暖化のファクトフルネス」⑥ <u>グリーンハブル</u> | https://www.youtube.com/watch?v=AvoQLmZNkFs |
| CIGS 杉山大志研究主幹講演「地球温暖化のファクトフルネス」⑦ <u>集中豪雨は温暖化のせいではない！</u> | https://www.youtube.com/watch?v=GluvX25TbAU |
| CIGS 杉山大志研究主幹講演「地球温暖化のファクトフルネス」⑧ <u>寒さによる死亡のほうが暑さによる死亡より遙かに多い！</u> | https://www.youtube.com/watch?v=g66lhgzM37k |
| CIGS 杉山大志研究主幹講演「地球温暖化のファクトフルネス」⑨ <u>東京はすでに3度上昇したが反映している！</u> | https://www.youtube.com/watch?v=oQkA1WijvEw |
| CIGS 杉山大志研究主幹講演「地球温暖化のファクトフルネス」⑩ <u>シロクマは増えている！</u> | https://www.youtube.com/watch?v=HwP3RF3rJEM |
| 温暖化より危険な寒冷化！藤和彦氏 | https://www.youtube.com/watch?v=8R78TtVkJ58 |

参考にした本



まとめ

- 地球の気温は様々な要因によって、暖かくも冷たくも、大きくも小さくも変動してきた。
- 近年の都市部での気温上昇は、ヒートアイランド現象によるものである。
- 植物と動物の体はの全ては、炭素を最も基本的な元素として形成されている。
- この炭素は、植物が光合成によって、空気中の炭酸ガスから取り込んでいる。
- 炭酸ガスが増えれば、暖かくなり、植物の生育が良くなり、食料が増える。
- この炭素は地球の歴史上、絶えず減少してきた。空気中に含まれる炭酸ガスは、現在0.04%しかない。
- 地球史的に空気中から減少を続ける炭素（炭酸ガス）を空気中に戻せるのは人間だけである。
- 脱炭素化を進めると、空気中から炭酸ガスが少なくなり、植物の光合成が進まなくなり、植物は育たなくなり、植物を食料とする動物も繁殖しなくなる。
- 人为的な脱炭素化によって……政府が行っていること
 - 化石燃料による発電の停止
 - 再生可能エネルギー（ソーラーパネル、風力）→自然環境の破壊
 - 賦課金による電気料金のアップ
 - 自動車のEV化→維持費のアップ・走行距離の短縮化